第
葛葉情愛

寶玉文庫

宗因

定雅

茅屋

百池

理汗

柳川

垂角

徐美

倍山

茅史

文陵

曉子

月文

[illegible] 実典
[illegible] 宝九
[illegible] 探花
[illegible] 芦角
[illegible] 吐雪
[illegible] 月村
[illegible] 文麓

○

[illegible] 之兮
[illegible] 赤山
[illegible] 赤皮

[illegible] 戊元
[illegible] 白堀
[illegible] 樵之
[illegible] 重石
[illegible] 女[illegible]
[illegible] 茅圃

○

月舞の[illegible]二日[illegible] 世拍
[illegible] 沼川
[illegible] 嘉重

菜摘や野辺の若草　杜蘭
余花の桜新しき　汎月
夢覚て夢なりけるうたゝ寝　珠南　下方

○

酒あまし紅葉の色　志流
見えそめし紅葉の色　美美
神河や水流る　百池

○

御手洗や孫と菖蒲　土卯
汐時を待つ磯の上　路周

○

朽の生木や梅と桜　梅隣
生て今咲かしを梅　宵之
斧入れし大樹の西風や　三千丈

○

松ちよ春ちよ月　定雅
お代や菊入れ　全

衣も香くり 綱を?れし 梅の森 亜石

月と日の出雲も 唯?ぬ ?れ 定雅

○ 於東山義仲庵中

守ひ?ぬちもちそ?桃の森 菖蒲

川ふき川一ゝをまきてまきぬ 鶏魚

米果やえる種をまきまのし 乎泉

春風を吹ふきそのここ?おか 時月

[illegible]くし楷?や青?風 龍肩

降?ふ?や?ひ柳?る 芦角

布ぬくと月もぬくむぬも 蕉水

世を捨し身も?の森?る 荒江

?る をふうし 行?く神?代 如阜

[illegible]　溪水

○

[illegible]　墨斗

[illegible]　苔む

[illegible]　左右

[illegible]　両水

[illegible]　沢星

[illegible]　苔　[illegible]　流

[illegible]　一水

[illegible]　芝斗

○

[illegible]　一柳

[illegible]　信孝

○

[illegible]　月峰

[illegible]　水原

[illegible]　産芝

青風[illegible]一時来

[illegible]　柳の　響音

[illegible]　月居

○

いろは西湖の月人節をひろまり
ゆるるこう彩ゆる月雲ぞ高なる山の
時ゆるゆる時なるまれる

波水

河原よりまてしかきて高れるやまと山湖

赤戸の　春八俳のうて

古ゆあ戸や蕎　ぬまり申ろる　仝

立濱ようとれるをまく

夕ゆうの月ゆるふ表拾うる　仝

○

俳諧連歌之部

奇仙一折

貸僕

ゆ月雲けあ　ぬ表ゆゆ

海おゆゆまく　山面ゆなく乃　宝雅

お代ゆうのくとし　ゆ蕎ゆ十ゆう　僕

ち蕎ゆゆ月ゆ　ゆ表ゆるゆう

松風のしゆゆれも　ゆ表ゆゆ　僕

ゆゆも表ゆゆ　ゆゆなる梅ゆ表　雅

二三合雑蕎あ　ゆ関ゆ入梅

冊　ゆゆゆゆゆゆゆゆ月　僕

と桂をちまめ紅郷の柳郎　雅

こうしも初恋ぬくまぬるる　僕

かるる世とのぬくく頼み稽古きく　雅

相きく一きふる尋のうたく　僕

建せる頃くも自き沈宮　雅

鶏舎の形うも　僕

樽の蔵くまぬ荒廃を行住うる

こ行きんくの　雅

子住宅ふる郷きく　僕

巨燈社ちく　雅

同一打　孤打

いてうもと対きく　梅史　月

ちうぶきちやつよ砂元　宗雅

紙きふう素中ちやうむら毒

元大きふ一雅さしな　打

古月千庭の姫きく元けう

ちう中ちう雅を物ちう舊ち

第舊ち行勢の第舊の雅

井房や自きまくおぬ　打

骨稽を清むの洞ちう小郷ち義　雅

[illegible]
杉の[illegible]の果とうよりう　雅
[illegible]の新[illegible]をうし　杉
百人[illegible]月新[illegible]を要[illegible]　[illegible]仕　雅
三秋[illegible]を[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]刀ぬ[illegible]ち　杉
河[illegible]あさう[illegible]山てう月　雅
[illegible]　杉
[illegible]　雅

日一杉
行う[illegible]　[illegible]　[illegible]　宣雅
[illegible]　[illegible]　[illegible]　宣要
門[illegible]　[illegible]　[illegible]　、
[illegible]　杉年の杭　雅
梅[illegible]　[illegible]　、
[illegible]　[illegible]　要
[illegible]　[illegible]　、
[illegible]　[illegible]　雅
[illegible]　[illegible]　要

思ふ工夫のまんなかも不ら沛　雅

こゝらしぬ彩く日をこぼして　貫

路の傍祈るに神前　雅

月影は朝よりよるに男女子　貫

棺おさめてもとの寺乃壁　雅

秋入ぬ見渡す蛸を取らし之　貫

皆よりも晴にも一本ぬ貓　雅

八まぬ黒ふさがりしく柏まま　貫

やすらひの身細めてめ本意　雅

斉仙堂庵

梅しやくゝ揉りまぜ　之竹

甑篝擦てふらく火をま　定雅

浪路流三日里からこのゝ　、

砕ま毎しまふりさまぬ月　竹

此あたり菜羅ゝの家かたく　、

髭関ちすし彩り寄まま　雅

出し御子傘まる日みひやくと　、

思ふ事つゝま麻衣の島　竹

いまして布留の社ぬり荒し　、

酒をくるまくるうるくし　雅
高き花まうきを初もとまうみて、
ゆふ山の色まさりたに　兮

右

同一折

をるまてうらうらやきをの山　友
日ゆきをくれ雨雲晴今　宣雅
曲水の水を清流に流入く、
埃出うらうら鶯の声　鉾　友
千鶴賀文を初うみ鶴、

花のうらゆ論ふ山の色形
雲ほのやきうらゆきゆ雪ゆ鶴、　雅
をきをゆ鶴をゆ春雪を　友
をきをゆ服むをゆ春雪を　雅
御の新おし　を　さけ　友
古用を武庫和歌形た　雅
朝お六子　清市　出月　友
ひさうを毛見ゆ事飯答ゆて、
雲をとうをうをうンの和如　雅
月をれををゆ雪ゆ雪ゆ　友

海は結ぶ氷つよく結ぶ　雅友

岸辺の結ぶ氷のもとにて

みなれぬ樹ちらしひ雪の結ぶ　雅

日一部

風ふきて梅ちる時の雪　梅里

あらしの中に雪ふる　宣雅

海きよく潮ふる舟さしつる

旭きらく解の立　春里

村雨に小雨月かくれや雨

絲も中絲一時なる　雅

春の夜の風名残の新樹ふる

潮ふる雨ふる　雅友　里

海中の雨中に物をたにふの色

於春きて野ふる又晴　雅

人はふる村雨雲や雨ハしる

ふるうつ山夕立　里

るの上うきに月のうき

糸風の春を結ぶ小雨　雅

神の前角力神むふ都立て

百年は常ぬ常所春里　里

花の新鳥ようつまる夕暮に
すみきひつゝ酒杯の屋　雅

同新仙

まつかぜのあやめも分ぬ夕暮に
紅をあさうつすあるしは　宣雅
新毒馬力の高橋口のゝく　草阜
たゝかーあしにすれまつ月　校
杯の屋庵るあるじや合すらん　雅
立さるくにこめうけるとく　阜

お尋ねとなるこぬ時ぬるる樽えらく　校
ちらし花を引てうる分う　雅
あんとんのこ新ぬるもかまをうる　阜
紅のつくしくとれるなむ　校
うるさい場をとるひ　雅
新樹の新へこのふ知るる　阜
ことくと海鉢を筆ふ殺まロ　校
まをまるまるまるまる賽あ　雅
ぬあくくみ笑の沖乗の鼓やく　阜
花ゝ出る日を一日書所　校

手もとの梅の中枝の花
田紙りるかと所 嵐 雅
雪てまし新るまま鶴ちらけ
石の智ちるふ十人寄年 皐
山茶句に桃おそまつ門うまし人 校
酒走を待ふみまはつか
寺えしつも新を神をえりく 雅
不二乃ちりて書ちうを 皐
小杉をを樽るる流るるおと 校
ひおすムとは出ち月代 雅

むむしい猩形ちにかをを紅く 皐
草も茅しるとうと哭おを 校
芽むしたちたを護門 雅
ち月の雪ち毎くちを 皐
望ちを生を清の塵をちち 校
樽ちぬるふ感 雅
虫剣酒新絶あしのまを亮 皐
稼ちるんやしい 新日 校
新今ひうみ桜ちを 雅
蘇ふ葉ちを帆 新兄 雅

能仙橋上にて

[illegible]

[illegible]

杉月

[illegible]

[illegible]

定雅

[illegible]

○

[illegible]

淀藩中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

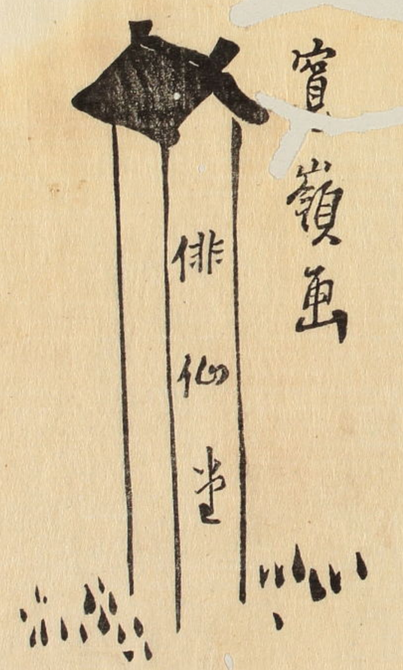
○

淀城址

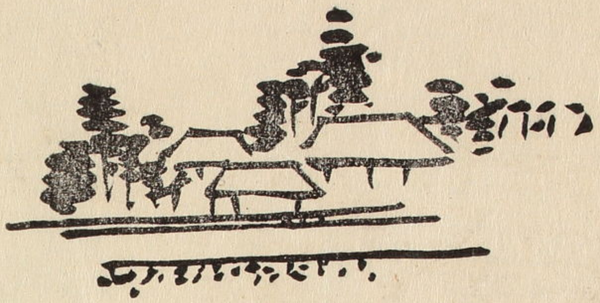
山頼て梅さつるわたらる　九下
ふ星〳〵　しら〳〵ちる　ぬ　千水
ちくちくち香ゆつくり咲く梅　白水
まめ〳〵や大ふる雪の雪ふり　巴須
花の雪　湖へこぼれて雪ふり　吐龍
雪ふり和尚に降るふる郭門　多多
山なくて雪ふるゆふ湖縁ふる　光山
ゆふ掃ふの盃の海ふふ　素扶

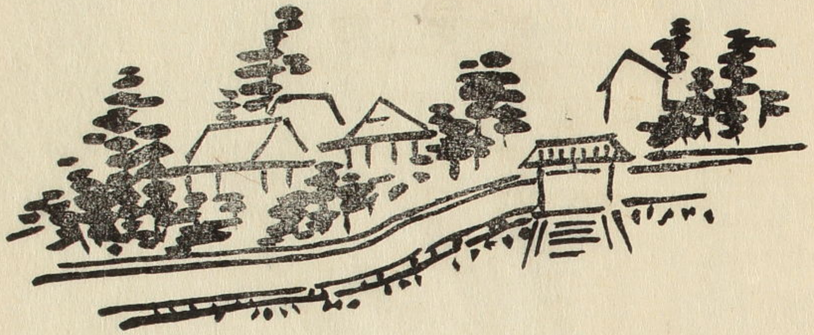
○

ゆふ雪の梅ふどんきつに降ふふ　洛芽戸



賓嶺画





貨僕

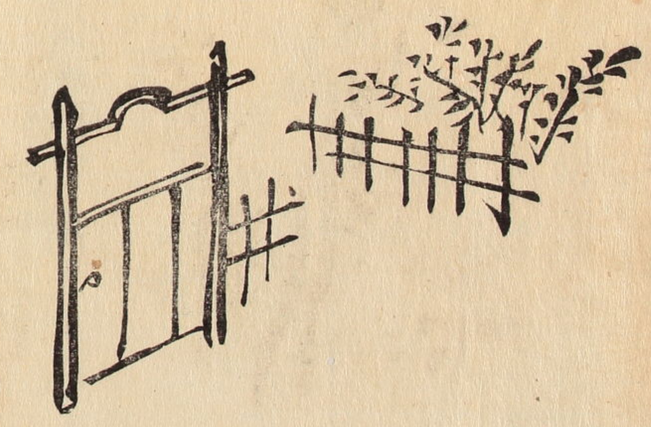
菊鳴（アツマ）

灌水

ひまをと又
一ぢあるる日長
ちやみる
ちぶるる孤松 雅

ひまを惜て
ちるまひ散すの月
菊阜

一声 雅
鶯 新一



人影
月あるる
鳥丸
佐所の物
雅

ゆふ雨
彩色蓮華
白秋

ひとしひと吹
あとは春を
雅

[illegible]　　長仲社

[illegible]　　二日　寅　　柿里

[illegible]　　寅雄

[illegible]　　弟雄

[illegible]　　雅

[illegible]　　迅無

[illegible]　　嘉雪

[illegible]　　蓋洲

[illegible]　　鳥曉

[illegible]　　雅石

夏みやかむかしのうしろ水草艸　定雅
まろ柳まもなき斗筆る可きかな　、
花ゝ句
人のゝ年すゝむ花を幾代　、
月の花ゝし梅咲といふもん　、
雪も月ゆ花も花もまゝつゝき　櫻　、
ちゝ花まのみる枝も那ゝりきゑ　、
添まゝ
舞みやまんるふ去之十月と人のいふ　、

歌仙一折
梅ゝ月志ら可ゝ社ゝ角　文鳳
雨往きの是ゝ来ぬ衣を　篤至
山まの笄みゆるよ雑子追ふ　仝
梢に消しゝ楡の焼杭　鳳
なる庵よ繻戸家を基ぬるみ　仝
蓮藕汁を煮る水に倒　文
谷網ふ白向れ白向ふ　仝
大佛鐘耳を掛つる　鳳
福蔵の露銭ゑくりとり来し　文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

日一ノ

九[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元結しるゝ髪まゆすゞし　五
銀鍋の清水汲まし　雅
うたゝ寝[illegible]出る枯　五
手の綾め縫ひかく菊見ゆるまて　雅
寒くも也しく下亜麻の月　五
蛸竿て居れとのまよひつゝやま　雅
世を捨てかく目貫(?)影ありく　五
とふこそもふさ一年にきつしとや　雅
実なくや気も出る春の日　五
○

は一折
唄ふきゝ三十九しやもぬけの春　月文
子たゝれ桜にむかし柳に　茶圃
このむ油三味線かゞる舟とて　定雅
ひとりしとなる先も頃そく　文
かけ秋月見に頃まで来てうつ　圃
石積かくれる蛙の宿　雅
秋の風坊や御連まで銀の森しく　文
古鍋みな節みなもかふ行に来よつく　圃
浦(?)前後の州に残りかきつつ天　雅

[illegible] 惟子 文
[illegible] 圃
[illegible] 雅
[illegible] 文
[illegible] 圃
[illegible] 雅
人の[illegible] 文
[illegible] 圃
[illegible] 雅

奇仙

[illegible] 定雅
[illegible] 百池
[illegible] 仝
[illegible] 雅
月の[illegible] 仝
[illegible] 元 池
甲冑の[illegible] 仝
[illegible] 雅
筆[illegible] 人通 池

何をうしなひ（ヒル）て遠ふ蛍（トビ）籠

とそうれをうをの中移る

栗ゝ笠をぬぎもあえず

うしろ山砂ふ清ふに移る月

二ツ井ゝ蓮は小社

いうを藪のメ繕解ゝ

こまふ附ゝ入さう書

大星ゝ出ゝ鼻ゝ晩ゝ

門ゝのゝ松ゝ藥結き

清生をかゝく芭蕉ゝ

蕉　池　蕉　池　蕉　池　蕉　池　蕉　池　蕉　池

今ゝの夢ゝ吟ゝ

ゝふゝ柿を見ゝ

日をすんゝ野吟

思ひ出ふ姉ゝ服ゝ

祝ゝ知ゝ小唄一口

清風のゝゝ吟ゝ

新鶯ゝ流ゝ

青ゝを百ゝ形ゝ事ゝ

笠ゝこのゝ柿ゝ

酒ゝ祝ゝ月見ゝ青ゝ

蕉　池　蕉　池　蕉　池　蕉　池　蕉　池　蕉

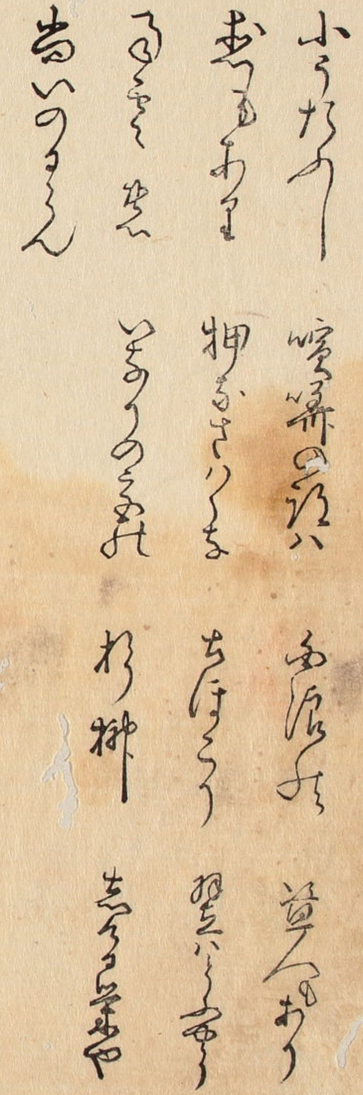
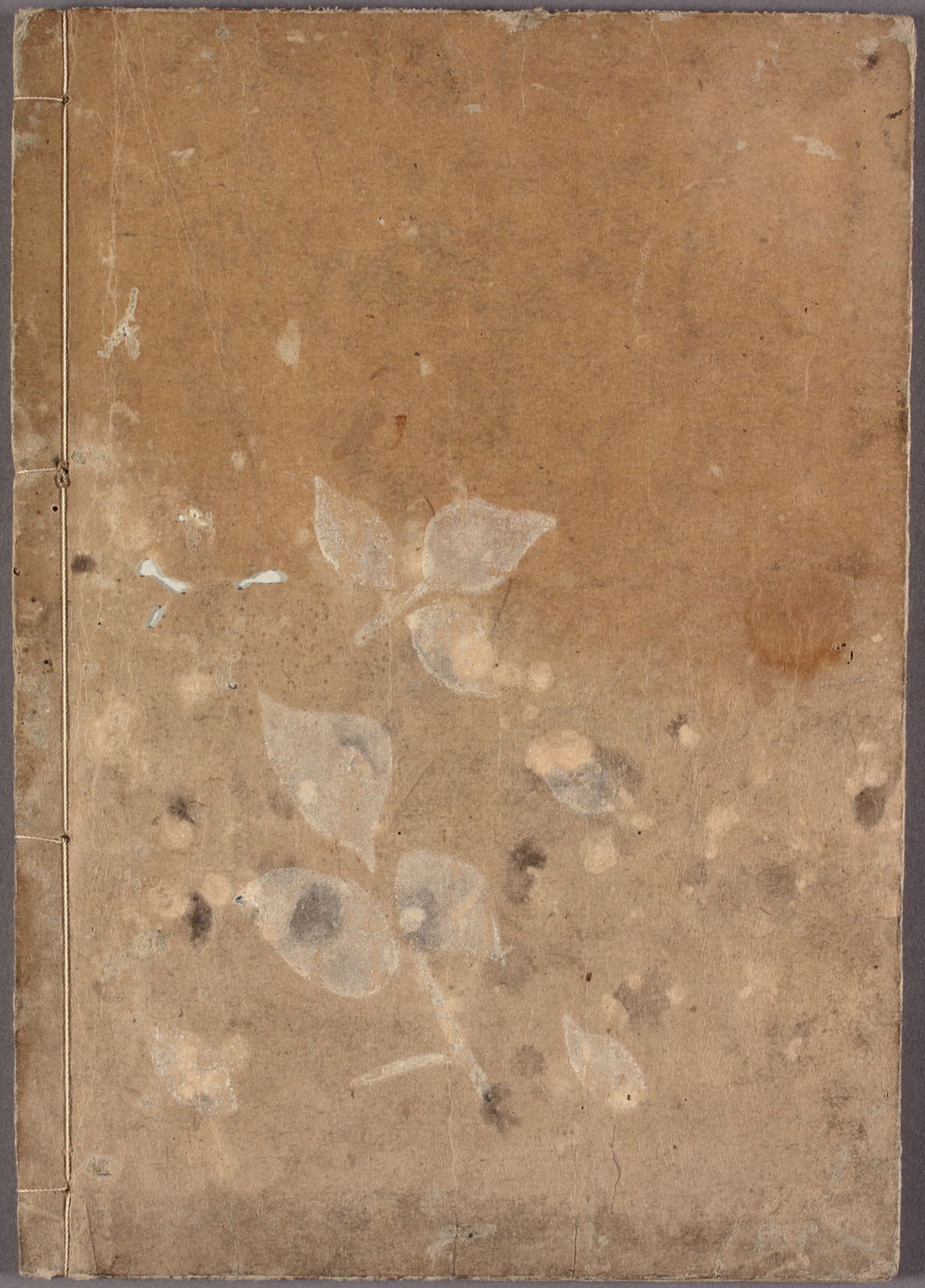
河荒れ行きてきたる　池
船を漕ぎ出でも遠く著うつく　沿
うゐてさいつくしかるのも遠入　粧
五十里の船師二日にて着て　池
津門くもりてきたる風　粧
河蝦とあそぶ舟の浮みたる　池
されハさのつくつる鯛よ名　粧

○

亦雲人ゝ歌つくあつやる　平松　亜濱
用のあるやくに毎日梅　ゆもも　きくま

初午を詠ぜしの考

ちさとある　神のたゝよ　神午も　きゝたるよの
きよの年　まゝよ雑集　きるゝ　如　ゝたゝ
ゝる所毎　うぢ平計ゝ　茶摘ゝ　緑ゆ茶摘
ゝハ玉の　ゝ長い長ゝ　頻ゝ　ゝふ一昇
きゝん塚　ゝ戸も戸　ゝ年入　緑ん滅の
黄ゝ葉や　茶屋の根う　ゆ茶　ゆ
緑雲　ゆ　山ちう行市　ゝる　城市ゝう
紅ゝん　ゝ　ゝれゝも　今ゝん　人新望の
稲ゝ神　孤ゝう　月ゝて　御ゝ今稲



文化十五寅年　摺物所　江戸金吾三郎